祇園小学校　校長だより（第８１号）令和２年度第２２号　令和３年２月１５日

校訓「高い理想 清い心 熱い想い」　文責　校長　中原弘之

学校教育目標　「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

遊びと人間

インターネット記事によると、「遊びとは知能を有する動物（ヒトを含む）が、生活的・生存上の実利の有無を問わず、心を満足させることを主たる目的として行うもの。」、「遊びはそれを行う者に、充足感やストレスの解消、安らぎや高揚などといった様々な利益をもたらす。」と記載してあります。

子どもにとっての遊びも、上記のとおり、心の満足や高揚感があるものだと感じます。子どもらしい歓声がそれを物語っています。子どもの発達に応じて遊びも変化しますが、複数の子が群れて遊び、その中でルールを決めたり、自分の考えを主張したり、相手の考えに同意したり、譲り合ったり、我慢したり、折り合いをつけたりなどしながら社会性を学んでいくのだと思います。

ところが、最近の子どもは、ゲームやスマホなどに時間を費やすことが多く、群れ遊びを通した社会性の育成が不足しているように感じます。新型コロナが収束してきたら、安全な場所で複数の子と遊ばせてあげたいものです。群れて遊べば、互いの意見が合わなかったりしてトラブルへと発展する場合もありますが、子ども同士で問題を解決できるよう大人がアドバイスすることも大切です。自分の子の主張だけでなく、相手の子の意見や考えもよく聞きながら、子ども同士で問題の解決ができるよう大人が整理してあげることも必要ではないかと思います

楽しても楽しくない

社会学が専門の菅野仁さんは、著書「友だち幻想～人と人の＜つながり＞を考える～」（２００８年、ちくまプリマー新書）の中で次のように述べておられます。

（前略）ラクして得られる楽しさはタカが知れていて、むしろ苦しいことを通して初めて得られる楽しさのほうが大きいことがよくあるのです。（中略）

「ちょっと苦しい思いをしてみる」ことを通して、本当の楽しさ、生のあじわいを得るという経験はとても大切なんじゃないかと思うんです。ラクばかりして得られる楽しさにはどうも早く限界（飽き）が来るような気がします。けれどちょっと無理して頑張ってみることで得られた楽しさは、その思いがとても長続きして、次に頑張る力を支えるエネルギーにもなります。かといって、ものすごく大変な苦しみばかりでは、疲れて嫌になってしまいますよね。どの程度の努力、どの程度の頑張りが、本当の楽しさをあじわうきっかけや力になるのかということを若い人たちにアドバイスしたり、自分で手本となって示せることも、「大人」といわれる人びとのとても大切な社会的役割だと思うのです。（後略）

子どもが苦労しながらも頑張っていることを励まし、苦労したあとに楽しさや幸せがあることを子ども自身にたくさん味わわせてあげたいものです。

祇園歴史の旅（その８１）「２０周年の祇園小（勝手に未来予想）」

来年度の祇園小学校を期待と希望を込めて勝手に予想してみます。新型コロナウイルス感染症のワクチン接種により、新型コロナとの接し方も変わってきました。新型コロナ対策により手洗い・うがい等の習慣が身に付き、インフルエンザや他の病気で休む児童が減りました。〇月〇日に祇園小創立２０周年記念式典が開催され、青空のもと、校訓碑除幕式が行われました。令和元年１０月１５日に制定された校訓が記念碑として形を現し、今後も祇園小と共に歩み続けていくことでしょう。

次回は「100 周年の祇園小その１（勝手に未来予想）」と題して、祇園小学校の未来を旅してみます…。